

中学校英語科指導における自信を持って コミュニケーションを図ろうとする生徒の育成

—— My SELF Noteを活用した表現活動を通して ——

長期研修員 相川 美智子

《研究の概要》

本研究は、中学校英語科指導において、自信を持ってコミュニケーションを図ろうとする生徒の育成を目指すものである。そのために、「相手に伝えるために書く」ことに重点を置いたMy SELF Noteを活用し、自己紹介や他己紹介活動を行った。My SELF Noteをポートフォリオとして活用し、できるようになったことの積み重ねを実感しながら、発表に向けて学習を進めた。My SELF Noteやスピーチの様子、生徒の感想の変容を見取ることで、My SELF Noteの活用が、自信を持ってコミュニケーションを図ろうとする生徒の育成に有効であることを検証した。

キーワード 【英語—中 書くこと ポートフォリオ 表現活動 スピーチ】

群馬県総合教育センター

分類記号：G09-02 平成29年度 263集

I 主題設定の理由

中学校学習指導要領解説外国語編（平成29年7月）においては、「具体的な課題等を設定するなどして学習した語彙や表現等を実際に活用する活動を充実させ、言語活動の実質化を図っている」と述べられている。文部科学省「平成28年度英語教育改善のための英語力調査報告書」（平成29年3月）によると、中学校生徒全体の英語力は「読む」「聞く」「話す」「書く」の4技能のバランスが良くない。その要因として、英語の授業で行われている「話す」「書く」に関わる言語活動が十分でないこと、4技能統合型の言語活動を重視した指導と評価が十分に行われていないことなどが挙げられる。中でも、「書くこと」において、無得点者が他技能よりも多いことが課題となっている。そのため、生徒の意欲を高めながら英文を書く機会を増やす工夫、まとまりのある文章を書いて伝えることに対する意欲を高め、内容を適切に書く指導の工夫、書くことを他の領域と関連付けて行う指導の工夫などの改善が求められている。また、平成29年度群馬県学校教育の指針では、授業において「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」をバランス良く取り入れ、複数の技能を統合した言語活動を行っていくことを求めている。

小学校学習指導要領（平成28年3月公示）では、4技能の言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することを外国語科の目標としており、「読むこと」や「書くこと」について言及している。文部科学省「平成26年度小学校外国語活動実施状況調査」（平成27年2月）では、中学校1年生が、「小学校の外国語活動でもっと学習しておきたかったこと」という問いに対し、「英単語を書くこと」（83.7%）、「英語の文を書くこと」（80.9%）と答えている。中学校の英語学習で、書くことの大変さ、音声中心の小学校外国語活動との差を感じていることが分かる。

本研究は、小学校外国語活動で学んだ表現を用いた「聞く」「話す」の音声中心の活動から、「書く」活動を加える過程で、My SELF Note (MSN) を活用することにより、自信を持って積極的に英語を使おうとする生徒の育成を目指すものである。本研究で用いるMy SELF Noteとは「相手に伝えるために書く」ということに重点を置いた、学習ポートフォリオである。今までは、単語のつづりや表現を正しく書くということに重点が置かれ、それらをいつ、どこで、誰に対して使うのかといった明確な相手意識を持たず、単語や表現の活用に結び付いていなかった。自分のことを伝えるMy SELF Noteを活用することで、相手意識が生まれ、生徒の「書きたい」「伝えたい」という意欲を高めることができる。そして、書くことを中心とした表現活動を通して「伝わった」「できた」という成功体験を、英語を通じて味わうことができる。My SELF Noteを「書くこと」に対する意欲が高い中学1年生から活用することで、「話せた」「伝わった」という実感が自信となり、英語が使えるという自己有能感の向上につながる。そして、「もっと話したい」「伝えたい」という気持ちが生まれ、3年間継続することにより、より積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲が高まると考える。これらのことは、今日の英語教育の課題に関わるものであり、コミュニケーション能力の育成を目指す上で意味があると考えられる。

II 研究のねらい

自信を持ってコミュニケーションを図ろうとする生徒を育成するために、3年間を見据え、My SELF Noteを活用して相手に伝えることを意識した「書くこと」を中心とした表現活動の有効性を、実践を通して明らかにする。

III 研究仮説（研究の見通し）

- 1 新出言語材料の導入において、小学校外国語活動の知識・表現を生かした活動、相手に「伝えたい」という場面設定をすることにより、生徒がコミュニケーション活動の目的を理解し、活動への意欲を高められるだろう。

- 2 毎時の授業において、表現を豊かにするために単語やフレーズを読んだり書いたりする活動を継続して行うことにより、英文を書くことへの苦手意識が軽減されるだろう。
- 3 英文を書く段階において、My SELF Noteを活用して表現活動を行うことにより、自身の成長を実感したり、自信を持ったりすることができ、積極的に英語を使おうとする意欲を高められるだろう。

IV 研究の内容

1 基本的な考え方

自信を持ってコミュニケーションを図ろうとする力

積極的にコミュニケーションを図ろうとするとき、これから自分が使おうとする英語が通じるであろうという安心感を持っていると意欲的に取り組めると考える。インテイクをするために練習を繰り返すことで、自分が使う英語に自信を持ちながら、積極的に相手とやり取りをしようとする態度と捉える。また、友達の発表を聞いたり、原稿を読んだりした感想を、書いたり、話したりして相手に伝えようとする態度も含むものとする。

2 手立ての説明

(1) My SELF Noteとは

自分が伝えたいことを、相手に伝えるために（話すために）書くことを目的としたノートである。また、継続して使用することで、今までの積み重ねを可視化し、英語が身に付いていると実感することができる学習ポートフォリオである。テーマに基づいて英文を書く過程で、書いたもの、添削されたものの変容が分かるように、記録していく。文法的な間違いに気付き、内容の充実を図ることを目指す。My SELF Noteには1年後のゴールが記され、生徒自身が目指すところが分かる。徐々に文構造が複雑になっていく過程で、生徒は繰り返し文章を書くので、英語を書く機会が増え、今までの取組を実感することができる。発表の工夫を書き込めば、練習するためのスピーキングノートになる。また、読み合うことでリーディングノートにもなり得る。このように他技能と連動して使用することができる。SELFはStudents English Level-up Folioの意味を持つ。

(2) 相手に「伝えたい」と思う場面設定

新出言語材料を導入する段階で、これまでの学習を通して身に付けた表現や小学校外国語活動で取り組んだ場面を応用したものを、生徒に提示する。生徒は「聞いたことがある」「前に取り組んだことがある」と感じ、提示された場面に対し、見通しを持って取り組むことができる。また、必然性のある場面を設定することによって、相手意識を持てるようになり、「伝えたい」という気持ちを高めることができる。

(3) 語彙や表現を豊かにするための活動

英文を書く活動で使用可能な単語や表現等をシートにまとめ、毎回の授業で、ペアまたは個人で読んだり、書いたりする。単語や表現は既習のものだけでなく、未習のものも使用する。

3 研究構想図



V 研究の計画と方法

1 授業実践の概要

(1) 第1回授業実践

対象	所属校 第1学年 3クラス (96名)
実践期間	平成29年6月1日(木)～15日(木) 24時間 (8時間×3クラス)
単元名	Lesson 3 Hello, everyone.
単元の目標	<ul style="list-style-type: none"> 自己紹介文の短い文章や会話文を読んで内容を理解する。 自分の名前、出身や好きなものについて紹介する。

(2) 第1回授業実践の結果と考察

8月から着任するALTに自己紹介をするという場面を設定した。積極的に辞書を使ったり、教師に質問したり、I want to～.やI like ～ing…などの未習表現を使用したりする生徒もいて、たくさんのことを伝えたい、相手のことも聞いてみたいという思いを感じた。英語学習に対して苦手意識が強い生徒も、自己紹介文を書く活動では意欲的に書こうとしていた。スピーチ発表をビデオ撮影し、クラスで上映すると伝えたところ、初対面の相手に良い印象を与えたいという気持ちから、声の大きさやアイコンタクト、笑顔を意識して練習していた。必然性のある場面設定は生徒のモチベーションに大きく影響することを改めて感じた。ビデオを見た際、生徒のスピーチに対してALTが一人一人に丁寧にコメントしてくれた。生徒はとてもうれしそうな表情で“Oh, really?”“Wow!”と良い反応をし、満足感や達成感を味わうことができた。そして、次の活動に対する生徒のモチベーションの向上につなげることができた。

毎時間のウォームアップでは、スピーチ作成を意識して構成した基本文シートを使用し、ペアで練習した。生徒は自己紹介文作成時において、基本文シートや教科書本文をアレンジすることができた。新出言語材料を学習した際には、My SELF Noteを活用し、新出言語材料を用いた簡単な自己

表現に取り組んだ。英文について、間違いがある部分に赤線を入れて生徒に返却したところ、友人や教師に尋ねる生徒もいたが、多くの生徒が自分自身で間違いを修正できていた。前回の間違いを意識して、2回目は間違えずに書くことができている生徒もいた。回数を重ねるごとに、書く作業がスムーズになり、文量が増えたり、自分で間違いを修正できるようになったりしていたと感じた。一方で、自己表現の際、英文を書くことに少々手間取る生徒もいた。My SELF Noteの使い方に習熟していなかったためと、新出言語材料を含む目標文の口頭練習の時間が十分でなく、定着が不足していたためと考える。また、アルファベットや単語を書くことが困難な生徒も、「伝えたいことが書けた」と感じるように、書く機会を確保する必要があると感じた。

スピーチ練習の際、発表の工夫点をMy SELF Noteに書き込むように伝え、話すためのノートとしても活用できた。今回のスピーチでは、全員の生徒が原稿をうまく活用し、発表できた。初めてのスピーチとしては、全体的に良くできた。発表後の生徒の感想では、「間違わずに英文を言うことができた」「書いたものが伝わるように頑張った」等が多い。生徒にとって、今回のスピーチでは、自分で書いた英語を間違わずに言うことで精一杯だったようで、相手を意識した発表、自信を持った発表という点には課題がある。「次のスピーチではリラックスして大きな声でできるようにしたい」「次は笑顔で、ジェスチャーを入れてみようと思う」といった、レベルアップを目指す感想も多かった。撮り直しができるビデオ撮影は、緊張感の緩和をもたらすなど、英語を話すことが苦手な生徒も、安心感を持つことができるという良い点がある。皆の前で徐々に堂々と発表するようになるためのステップとして、初期の段階でビデオを活用することは有効であると考え。自信を持って発表するためには、自分が伝えたいことが表現できている原稿があること、目指すスピーチの姿があること、原稿を十分に練習する時間があることが必要である。そして、発表後、フィードバックがあることで次の活動への意欲につながると考える。

(3) 第2回授業実践

対 象	所属校 第1学年 3クラス (96名)
実践期間	平成29年10月10日 (火)～20日 (金) 18時間 (6時間×3クラス)
単元名	Chapter 2 Project ○○さんを紹介しよう
単元の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・友達や憧れの人について紹介する、まとまりのある文章を書く。 ・紹介したい人について、聞き手を意識しながらスピーチをする。

2 検証計画

検証項目	検証の観点	検証の方法
見通し1	新出言語材料の導入において、小学校外国語活動の知識 ・表現を生かした活動、相手に「伝えたい」と思う場面設定をすることは、生徒がコミュニケーション活動の目的を理解し、活動への意欲を高めることに有効であったか。	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介文作成時及びスピーチ発表時の観察 ・MSNの英文の数や使用した表現の分析 ・授業実践後のアンケートの分析
見通し2	毎時の授業において、表現を豊かにするために単語やフレーズを読んだり書いたりする活動を継続して行うことは、英文を書くことへの苦手意識を軽減することに有効であったか。	<ul style="list-style-type: none"> ・MSNに書いた紹介文に使用されている単語や表現、英文の分析 ・授業実践後のアンケート分析
見通し3	英文を書く段階において、My SELF Noteを活用して表現活動を行うことは、自身の成長を実感したり、自信を持つことができ、積極的に英語を使おうとする意欲を高めることに有効であったか。	<ul style="list-style-type: none"> ・MSNに書いた紹介文の分析 ・紹介文作成時及びスピーチ発表時の観察 ・授業実践後のアンケートの分析

3 抽出生徒

A	学習活動に意欲的に取り組める。書く英文の量も多く、正確に書けている。内容のまとまりを考えて英文を作成することができる。自己紹介スピーチでは落ち着いた様子で堂々と話すことができていたが、表情が硬く、自然さに欠けていた。
B 1	学習活動に意欲的に取り組める。学習した英語を積極的に使っている。自己紹介スピーチでは、ジェスチャーを交えて話そうとしていたが、緊張してしまい、間違わずに話すことで終わってしまった。
B 2	学習活動に前向きに取り組める。多少間違いはあるが、積極的に英文を書こうとしている。自己紹介では、暗唱した英語を話すことができた。表情や発音に気を付けて発表したいと思っている。
C	書くことを苦手と感じているが、発表に対して前向きに取り組める。自己紹介では、英文を暗唱して発表できた。ジェスチャーなどを積極的に使い、「相手に伝えたい」という気持ちがある。英語をすらすら書けるようになりたいと思っている。

4 評価規準

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
<p>○紹介したい人についてなるべく多くのことを伝えようとしていたり辞書を使いながら、積極的に英文を書こうとしたりしている。</p> <p>○聞き手を意識し、相手に伝わるように話そうと（発表しよう）している。</p>	<p>○既習事項を適切に使用して、まとまりのある文章を書くことができる。</p> <p>○正しい発音やイントネーションで話し、聞き手を意識して、工夫して話すことができる。</p>	<p>○友達の発表を聞いたり、原稿を読んだりして、全体の概要や内容の要点を適切に聞き取ったり、読み取ったりすることができる。</p>	<p>○三人称（単数・複数）の用法に関する知識を身に付けていて、文の中で正しく使用している。</p>

5 指導計画（全6時間予定）

時	伸ばしたい資質・能力		主な学習活動
	活用させたい知識等	思考力・表現力等	
1	<p>○既習事項の知識</p> <p>○三人称単数現在（肯定文）の知識</p> <p>○very well, very much, often, sometimesなどの表現</p>	<p>○紹介する人物について三人称を用いて表現する力</p> <p>○紹介する人について伝えたいことを整理し、より良く伝わるように考える力</p>	<p>○ALTのモデルスピーチを見聞きし、概要を理解したり、より良い発表の姿について知ったりする。</p> <p>○三人称単数現在（肯定文）の復習活動を行う。</p> <p>○紹介したい人物について、その内容を考える。</p> <p>○三人称単数現在（肯定文）で3文程度の紹介文を書く。</p>
<p>手立て①相手に「伝えたい」と思う場面設定</p> <p>手立て②語彙や表現を豊かにする活動</p> <p>手立て③My SELF Noteの活用</p>			<p>評価：言語や文化についての知識・理解 外国語表現の能力（MSN）</p>
2	<p>○既習事項の知識</p> <p>○三人称単数現在（否定文）の</p>	<p>○紹介する人物について三人称を用いて表現する力</p>	<p>○三人称単数現在（否定文）の復習活動を行う。</p>

	<p>知識</p> <p>○everyday, not at allなどの表現</p> <p>手立て②語彙や表現を豊かにする活動 手立て③My SELF Noteの活用</p>	<p>○紹介する人について伝えたいことを整理し、より良く伝わるように考える力</p>	<p>○三人称単数現在（否定文）で3文程度の紹介文を書く。</p> <p>○スピーチの紹介内容をマッピングする。</p> <p>評価：言語や文化についての知識・理解 外国語表現の能力 (MSN)</p>
3	<p>○既習事項の知識</p> <p>○三人称単数現在（疑問文）の知識</p> <p>○often, sometimes, very wellなどの表現</p> <p>手立て②語彙や表現を豊かにする活動 手立て③My SELF Noteの活用</p>	<p>○紹介する人物について三人称を用いて表現する力</p> <p>○紹介する人について伝えたいことを整理し、より良く伝わるように考える力</p>	<p>○三人称単数現在（疑問文）の復習活動を行う。</p> <p>○紹介内容を考える。</p> <p>○三人称単数現在（疑問文）で3文程度の紹介文を書く。</p> <p>評価：言語や文化についての知識・理解 外国語表現の能力 (MSN)</p>
	<p>○接続詞の知識</p> <p>○人を紹介する文を書く際によく使われる表現についての知識(This is~, be good at~, 性格などを表す形容詞、その人への印象を表す文など)</p> <p>手立て①相手に「伝えたい」と思う場面設定 手立て③My SELF Noteの活用</p>	<p>○紹介する人について伝えたいことを整理し、より良く伝わるように考える力</p> <p>○今まで書いた英文を基に、新しい英文を加えながら文章を構成する力</p>	<p>○グループでスピーチ内容について簡単に紹介し合い、内容を整理したり、深めたりする。</p> <p>○今まで書いた英文を基に、人を紹介するスピーチ原稿を作成する。</p> <p>評価：コミュニケーションへの関心・意欲・態度 外国語表現の能力 (MSN・観察)</p>
5	<p>○発音、アクセント、イントネーションについての正しい知識</p> <p>○接続詞の知識</p> <p>手立て①相手に「伝えたい」と思う場面設定 手立て③My SELF Noteの活用</p>	<p>○聞き手を意識し、声の大きさやスピード、表情やジェスチャーなどを工夫して、より良く相手に伝えられる力</p>	<p>○英文の修正、スピーチ発表の練習をする。</p> <p>評価：コミュニケーションへの関心・意欲・態度 外国語表現の能力 (MSN・観察)</p>
6	<p>○発音、アクセント、イントネーションについての正しい知識</p> <p>○感想を言う時に使用可能な good, nice, cool などの形容詞や三人称の代名詞、too, alsoなどの副詞の知識</p> <p>手立て③My SELF Noteの活用</p>	<p>○聞き手を意識し、声の大きさやスピード、表情やジェスチャーなどを工夫して、より良く相手に伝えられる力</p> <p>○発表を聞いて内容を理解する力</p> <p>○既習事項を用いて感想を表現する力</p>	<p>○スピーチ発表をする。</p> <p>○友達の発表を聞いて、その内容を理解する。</p> <p>○友達のスピーチ原稿を読んでコメントや質問を簡単な英語で書く。</p> <p>評価：コミュニケーションへの関心・意欲・態度 外国語表現の能力 (MSN・観察)</p>

VI 研究の結果と考察

- 1 新出言語材料の導入において、小学校外国語活動の知識・表現を生かした活動、相手に「伝えたい」という場面設定をすることは、生徒がコミュニケーション活動の目的を理解し、活動への意欲を高めることに有効であったか。

(1) 学習活動の概略

第2回授業実践では、「ALTに自分の友達や憧れの人について紹介する」という場面を設定した。授業の導入で、ALTが自分の好きな俳優について紹介するビデオを視聴した(図1)。表情豊かに、写真やジェスチャーなどを効果的に使用しながら、相手に伝えたいことを分かりやすく伝えるということに気付かせることをねらいとした。生徒は効果的な伝え方を理解し、そして次は自分達がALTに伝えるという必要性を感じた。その後、生徒は紹介する人物を決め、内容についてマッピングを行った(図2)。図3のルーブリック評価の項目に準じて、人物に関する情報が六つ以上書けるようにした。第1時から第3時までの授業で、三人称単数現在の復習活動の後に、紹介内容を広げる活動をしてから、My SELF Noteに英文を書いた。第4時の授業では、マッピングシートを用いて、スピーチ内容をグループで簡単に紹介し合う活動を行い、紹介文作成に取り組んだ。



図1 ALTのモデルスピーチ



図2 生徒のマッピングシート

(2) 全体の様子から

第4時のマッピング活動では、伝えたいことが広がっている様子が見られた(図2)。内容紹介活動で友達の情報を発表した生徒に対して、「そうだったんだ」「初めて知った」というように、自分が今まで知らなかった情報に反応していた。相手に「伝えたい」と思う場面設定により、「自分が使える英語」から「使いたい英語」に関心を持つようになった。紹介文を書いている際、進んで辞書や教科書などを調べて、伝えたいことを表現しようとする生徒が多く見られた。使用する語の適否や、語や表現の使い方などを確認するために、積極的に質問する生徒もいた。相手に伝わるように、工夫しながら紹介文を書いていた。伝えるために新しい語や表現を積極的に使おうという姿勢や、表現力を高めたいという思いを感じることができた。一方で、アイデアの広げ方やまとめ方について、あまり慣れていない様子であった。紹介内容を整理することを目指したが、マッピングをしたことにより、内容が広がり過ぎたり、情報の関連性が弱くなってしまうという生徒もいた。マッピングは即興的に話す際のメモとしても活用できるので、今後、発表に対して即興的にやり取りをすることを考えると、効果的なマッピングの仕方についても、触れておく必要がある。

今回の活動では、目標とする英文の数は10文以上と設定した。10文以上の英文を書いた生徒は96名中89名、18文書いた生徒もいた。内容ごとに文章を構成し、聞き手が分かりやすいようにつながりを工夫している生徒も見られた。生徒の感想から、相手にたくさんのことを伝えたいという気持ち

Chapter 2 Project 友達・憧れの人紹介評価

目標：友達や憧れの人について、今までに学習した表現等を用いて、10~12文程度のまとまりのある英文で紹介できる。

	取組	内容	満足度
2	前時までに書いた英文は参考に にするが、新しい文を加えて 書くことができた。	紹介する人物について、 興味や性格などの異なる情報が 6つ以上含まれている。	伝えたいことを全て表現する ことができた。
1	教科書や教師のモデル文を参 考にしなが英文を書くこと ができた。	紹介する人物について、 興味や性格などの異なる情報が 3つ以上含まれている。	伝えたいことを全てではない が、ほとんど表現することが できた。
0	全く英文を書くことができな かった。	紹介する人物について、 興味や性格などの異なる情報が 3つ以下しか含まれていない。	伝えたいことを全く表現でき なかった。

図3 ルーブリック評価

ちを感じた（図4）。また、「書いて伝える」から「話して伝える」ことを意識していることも分かった。86%の生徒が今回の他己紹介活動に「意欲的に取り組めた」「どちらかといえば意欲的に取り組めた」と答えた（図5）。理由は表1のとおりで、「伝えてみたいことがあった」ということ以上に、英語で表現できる楽しさを味わうことができたようだ。英語で表現する場を与え、伝えてみたいテーマを設定することで、英語で表現する楽しさを味わい、意欲の向上につながると考える。一方で、「意欲的に取り組むことができなかった」と答えた生徒の理由として、「英語で表現することが苦手だから」が最も多く、伝えたいことはあるが表現することが苦手であると考えられる。

また、ルーブリック評価項目の取組への満足度は、90%以上の生徒が、「伝えたいことを、全てではないがほとんど表現できた」と答えた。ルーブリックを設定することで、生徒は目指すところが分かり、活動に積極的に取り組めた。一方で、生徒は評価の1を選んでいても、教員側から見ると十分満足な取組だったと感じる生徒もいた。「もっと単語や表現を知っていれば伝えられるのに」という思いから満足度が1にとどまったと考える。自信を持って伝えるために、もっと表現力を身に付けたいという意欲にもつながった。

スピーチ発表の撮影では、最初は緊張している様子はあるものの、自然な表情やジェスチャー、話し方になった。相手を意識して話すことができた。自分の発表に納得できず、撮り直しを申し出る生徒も数名いて、より良いものを見せたいという意欲を感じた。撮影後の生徒の感想には、「カメラのところに相手がいるつもりで話した」「前のスピーチよりも声の強弱や、笑顔でスピーチすることを工夫した」等があり、伝える相手を意識して、積極的に伝えようとしていたことが分かった。今回は新任のALTに向けてという設定であったが、ALTが新任とは限らないので、例えばALTの家族や友達等に設定を広げることを検討していく必要がある。

(3) 抽出生徒の様子から

抽出生徒の様子は、次ページ表2のとおりである。4名とも、とても積極的に取り組んでいた。抽出生徒Aは、正しく、分かりやすい紹介文を書くことができていた。表情の硬さが課題であった発表に向けて、My SELF Noteに間を取る、ジェスチャーをする、強調する等の留意点を記入して練習していた（図6）。ジェスチャーを取り入れながら、笑顔を意識し、落ち着いて内容をしっかりと伝えようとする話し方ができていた。抽出生徒B1は学習した英語を用いて、分かりやすい紹介文を作成していた。練習の際、何度も繰り返し熱心に練習をしていた。発表では、友人の写真を見せながら、明るい表情で、大きな声でジェスチャーを交えながら、話すことができていた。B1自身は「緊張してしまい、ジェスチャーを忘れてしまったところがある」と話していたが、相手に話すような雰囲気、生き生きと発表できていた。抽出生徒B2は、

- ・友達のことをより伝わるようにたくさんの情報を書いた。もっと伝わるように発表の仕方を工夫したい。
- ・(友人について)「みんなが知っているかな?」ということをとたくさん書けた。
- ・辞書などを使って調べて、曖昧だったけれど、新しい言葉に挑戦した。
- ・もっと詳しく書けるようになりたい。
- ・わからないところを調べて、新しい文が書けた。

図4 生徒の感想

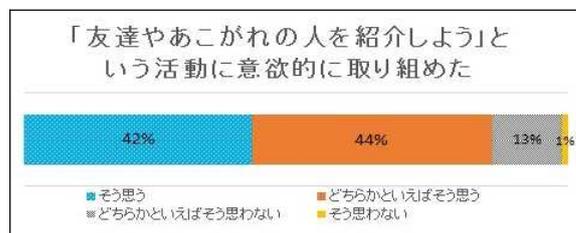


図5 事後アンケート

表1 「意欲的に取り組めた」理由

英語で表現できると楽しいから	44%
伝えてみたいことがあったから	27%
英語で表現することに興味があるから	16%
ALTにわかってもらいたいと思ったから	12%
その他 (英語で話すことを頑張ろうと思った。好きな物を紹介したり、それをジェスチャーしたりするのが好き。)	1%

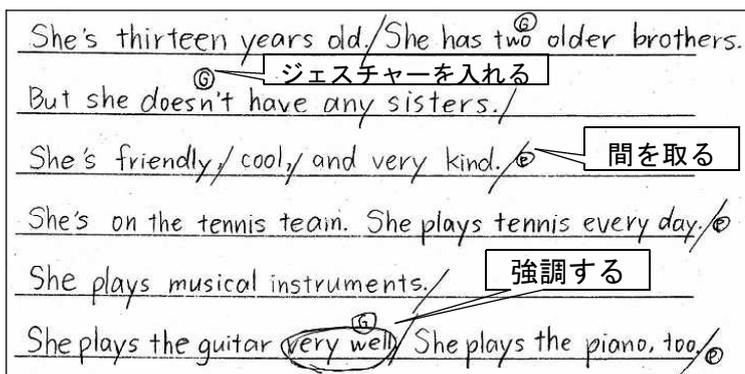


図6 抽出生徒AのMy SELF Note

前回よりも難しい表現に挑戦し、教師にも積極的に質問しながら紹介文を作成していた。発音練習等も数多く行い、発表に臨んだ。抽出生徒Cは友人についての紹介文を作成する過程で、My SELF Noteに書きためた英文だけでなく、内容を考えて新しい文を追加していた。発表での表情はやや硬さが残ったが、ジェスチャーをしながら話し、相手に「分かってもらおう」という気持ちが伝わってきた。以上から、小学校外国語活動の知識・表現を生かした活動、相手に「伝えたい」という場面設定をすることは、生徒がコミュニケーション活動の目的を理解し、活動への意欲を高めることに有効であったと考える。

表2 抽出生徒の様子

A	友人についての紹介文を書いた。英文の数は13文であった。マッピングにおいても情報をたくさん書くことができていた。「書くこと」は得意だが、「話すこと」は苦手と感じている。第1回のスピーチの際は表情の硬さを課題に挙げていた。未習表現も使用しているが、既習表現を確実に使用し、相手が分かりやすい紹介文を作成していた。「英語で表現できると楽しい」と感じている。
B1	友人についての紹介文を書いた。英文の数は11文であった。友人の好きなことや苦手なこと、性格などの情報を書くことができていた。「話すこと」は得意だが、「書くこと」は苦手と感じている。MSNに書きためた英文を中心に紹介文を作成していた。「緊張せず、ジェスチャーなどを工夫して伝えたい」という気持ちを持っていた。「英語で表現できると楽しい」と感じている。
B2	憧れの野球選手についての紹介文を書いた。英文の数は12文であった。たくさんのことを伝えようと、未習語も使いながら紹介文を作成した。「話すこと」は得意だが、「書くこと」は苦手と感じている。自己紹介のスピーチでは、覚えたものを発表したという感じが強かった。今回の発表に向けて、練習をたくさんしていた。発音良く話したいと思っている。
C	友人についての紹介文を書いた。英文の数は10文であった。自分で考えて英文を書き、内容も前よりも良くなったと本人は感じていた。「読むこと」は得意だが、「話すこと」は苦手と感じている。今回の活動について、「ALTに友人のことを分かってもらいたい」という気持ちで、積極的に取り組んでいた。MSNに書いた英文を中心に紹介文を作成していた。

2 毎時の授業において、表現を豊かにするために単語やフレーズを読んだり書いたりする活動を継続して行うことは、英文を書くことへの苦手意識を軽減することに有効であったか。

(1) 学習活動の概略

既習事項の他に、紹介文で活用可能な未習表現を含めた基本文シートを用いた練習をウォームアップでペアにより行った。基本文が定着しているかどうかは教師が確認した。生徒が書いた英文について、第1回授業実践同様、校正記号を用いて添削した。次時に返却した際、生徒は自身の間違いについて確認し、修正を行った。書きためた英文を基に紹介文を作成する過程で、生徒が書いた未習表現を含む英文を紹介し、全体で共有することで、表現の広がりを期待した。

(2) 全体の様子から

基本文シートは未習語を含んでいたため、全てを暗唱できた生徒は各クラス7～8名程度で、日本語から英語で書く活動までは至らなかった。第1回授業実践では、My SELF Noteの使い方が周知できていなかった部分を再度確認した。生徒は添削、修正、追加の流れが理解でき、手元にMy SELF Noteが返却されるとすぐに読み直し、間違えた部分を直していた(図7～図9)。間違いに自分で気付く生徒が多くなり、書いた英文に間違いが少なくなってくる様子が分かるようになると、とてもうれしそうな表情をしている生徒がいた。記号を用いた添削は時間はかからず、教師の負担も少ない。

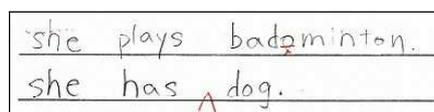


図7 My SELF Note Step 1

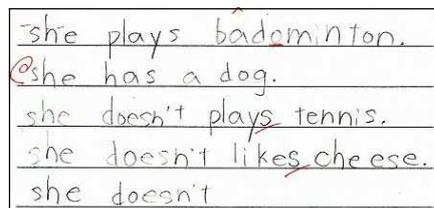


図8 My SELF Note Step 2

生徒はMy SELF Noteに紹介文を書く過程で、伝えたいことを表現するために、基本文シートや辞書などを参考にしながら、未習表現を積極的に取り入れていた(次ページ図10)。友達が書いた未習表現について、全体で共有することで、自身の原稿に取り入れている生徒もいた。現時点では少々難しい表現であると感じたが、生徒は使える表現として捉えて、積極的に使用していた。このような基本文シートの活用は、生徒の語彙や表現の広がりに役立つものと考えられる。

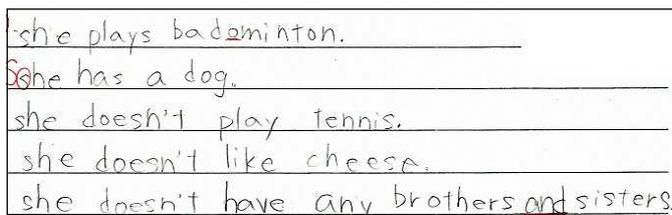


図9 My SELF Note Step 3

現時点では少々難しい表現であると感じたが、生徒は使える表現として捉えて、積極的に使用していた。このような基本文シートの活用は、生徒の語彙や表現の広がりに役立つものと考えられる。

事後アンケートの「基本文シートを用いた練習は、英文を書くことに役に立っているか」の項目に、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた生徒は91%で、基本文シートの有用性を感じていることが分かる。また、「英単語を書いたり、英文を書いたりすることができるようになってきている（事前アンケートではできていない）と思いますか」では、以前よりも書けるようになってきていると答えた生徒が増加し（図11）、My SELF Noteを用いてコミュニケーション活動を行うことで、単語や表現の知識が広がり、自分が伝えたいことを書けるようになってきていると感じている（表3）。生徒の感想では、「もっと単語を知りたい」「習っていない単語を使って表現できた」「前に書いた英文を参考にした」などがあり、語彙が増えていること、そして増やしたい、増やそうとしていることが分かる。自分が伝えたいことが英語で表現できたと感じるにより、満足感を味わい、さらに積極的に活動に取り組めると考える。伝えたいことと表現できることのギャップを少なくするために、単純な英文にしたり、別の表現で言い換えたりといった教師の支援が必要であると感じた。

(3) 抽出生徒の様子から

抽出生徒の様子は表4のとおりである。抽出生徒Aは、一つの情報をより詳しく述べようとする際に未習表現を用いていた。例えば、She has two **older** brothers. But she doesn't have **any** sisters. である。紹介文では使用しなかったが、前時までのMSNには、She doesn't play table tennis, **either**. というように、基本文シートを参考にしたと思われる英文を書いていた。紹介文は比較的シンプルな内容であるので、相手に確実に伝えることができた。抽出生徒B1は基本文シートの表現を活用していた。アンケートでは、「とても役に立っている」と答えており、紹介文作成の負担を軽減していると考えられる。抽出生徒B2は、新しい単語や表現に積極的に挑戦することで、達成感を味わい、自信につなげることができたと考える。抽出生徒Cは、My SELF Noteで間違いがある箇所を自身で訂正し、次時には正しく書けるようになった。紹介文に直接使用した文の数は3文と少なかったが、単語を変えて使用していた。積極的に辞書を使ったり、教師に質問したりしていた。以上から、毎時の授業において、表現を豊かにするために単語やフレーズを読んだり書いたりする活動を継続して行うことは、英文を書くことへの苦手意識を軽減することに有効であったと考える。

表4 抽出生徒の様子

A	第1回授業実践時も基本文シートの全文暗唱ができていた。今回も、シートに載っている英文は全て日本語から英語を言えるようになった。紹介文の中に基本文シートの英文を参考にした英文を書いていた。MSNに紹介文を書く活動を通して、以前に比べて、様々な単語や表現を知り、書けるようになってきていると感じている。
B	基本文シートの練習に積極的に取り組んでいた。覚えるべき単語や英文が多くなってきて、覚えることの難しさを感じている。
1	三単現のsやesを付け忘れて、自分が書く英文に自信が持てていない様子がある一方で、単語を間違えずに書けるようになってきていると感じている。
B	辞書を積極的に用いて、紹介文を作成していた。前回は学習した英語が中心であったが、自分が伝えたいことを表現するために
2	難しい単語や表現に挑戦した。しかしそれらの語をスムーズに発音することはできていなかった。
C	基本文シートの練習に真剣に取り組んでいた。全てを言えるようにはなっていなかった。MSNに紹介文を作成する活動を通して、「様々な単語や表現を知ること」「まとまりのある文章を構成すること」ができるようになったと感じている。

【基本文シートから参考にした表現】
 He doesn't play video games at all.
 He plays tennis but he sometimes plays badminton.
 He is good at studying and sports.
 He watches anime every day. He especially watches SAO.
 She has a cat. But she doesn't have any dogs.
 【生徒が書いた未習表現】
 I'm going to talk about my favorite teacher.
 I want to be her friend now and forever.
 He is my best friend.
 I respect her.

図10 生徒が書いた英文

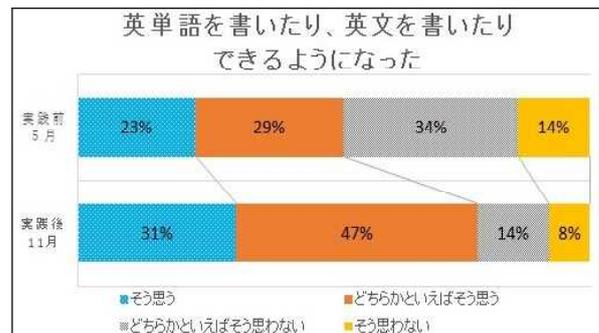


図11 英単語や英文が書けるようになった生徒の容容

表3 My SELF Noteを使ってできるようになったこと（複数回答）

いろいろな単語や表現を知ること	59%
自分が伝えたいことを英語で書くこと	51%
まとまりのある文章を構成すること	47%
たくさんの英文を書くこと	35%
自信を持ってスピーチすること	25%

3 英文を書く段階において、My SELF Noteを活用して表現活動を行うことは、自身の成長を実感したり、自信を持ったりすることができ、積極的に英語を使おうとする意欲を高めることに有効であったか。

(1) 学習活動の概略

第1時から第3時までには書きためた英文を基に、My SELF Noteに他己紹介文を作成した。その後、各自で意味の区切り、間の取り方、強調、ジェスチャーなどの発表の工夫点をMSNに書き込んだ。クラスでALTと共に紹介ビデオを視聴し、発表の成果を共有した。ALTは一人一人のスピーチに対して感想やアドバイスを伝えた。

(2) 全体の様子から

10～12文程度の紹介文を書くということで、前回に比べ書く分量も増えたが、My SELF Noteに書きためた英文を活用したので、あまり負担に感じることなく書き進めている様子が見られた。英語を書くことを苦手とする生徒も、My SELF Noteに書きためた英文を活用することができるので、全く紹介文が書けないということはなく、スムーズに活動に取り組んでいた。しかし、書きためた英文を紹介文に生かそうとしたとき、そのまま写してしまった生徒がいた。前時までには書いた文は、前後のつながりがない英文だったため、文と文のつながりや内容のまとまりがなく、英文を並べただけの紹介文になってしまった。そこで、簡略化した紹介文モデルを提示し、文章構成について尋ねた。生徒は、関連する内容ごとにまとまっていること、大まかな情報から細かな情報へと流れていること等に気付いた。

事後アンケートでは、95%の生徒がMy SELF Noteは自分の気持ちを伝えるのに役に立つと答えた(図12)。また、英語で発表する活動への意欲も向上している(図13)。My SELF Noteを活用したことにより、伝えたいことが書けるようになった自分を感じることができ、もっと書けるようになりたい、もっと伝えたいという気持ちが高まっていると考える。My SELF Noteは自分が伝えたいことを書くノートであるので、意欲を持って活動に取り組める。今まで自分が書きためてきた英文を基にするので、よりスピーディに書く活動を行える。また、これまでの自分の間違えた部分を振り返ることができるので、意識して英文を書くようになり、言語材料の定着が期待できる。さらには発表の工夫を書き込み、積み重ねていくことができる。自身の英語がレベルアップしていくことを感じることで、自信につながると考える。

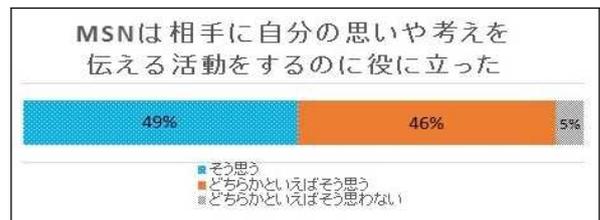


図12 My SELF Noteの有用性

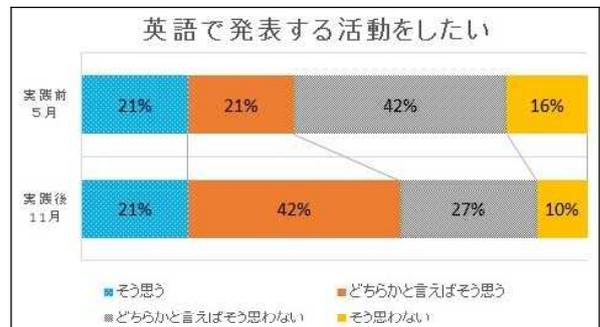


図13 発表活動への意欲の変容

今回の発表では、自己紹介スピーチ発表時よりも、明るい表情で自然な笑顔で話せていたり、ジェスチャーをしたりと、相手により良く伝えようと工夫していた生徒が多かった。友達の発表を見て、「ジェスチャーとか強弱とかスピードとかを気を付けて発表できていてすごいと思った」「自信満々に話していた」と感じた生徒もいた。恥ずかしさから自分の映像を直視できない生徒もいたが、他の生徒からの「すごい」「上手」などの賞賛や、ALTのコメントを聞くと、うれしそうな表情を浮かべていた。伝えたい相手、発表の聞き手からの肯定的な反応により、生徒は自信につながる達成感や成長を感じることができた。英語を苦手と感じている生徒も「英語を使って伝えてみたい」と言う気持ちを確実に持っていることを改めて感じた(図14)。表現活動は新しい語や表現に挑戦するモチベーションを高めることができた。自分の思いや考えを前よりも伝えることができるようになった自分に気付くことが、もっと伝えたいという意欲につながった。

- 自分の周りの物や人を紹介するのは、とても楽しいです。あまり英語は得意じゃないけど、しゃべるのは楽しい。
- スピーチを英語で話すことで、自分の伝えたいことを英語で話すことが楽しくなった。また、英語の授業がもっと楽しくなった。今の英語学習をもっと頑張りたいという気持ちが強くなった。
- (スピーチ) 発表などで、教わった単語や表現の仕方を発表できるのは良いと思いました。
- 英語を話したり、書いたり、覚えたりするのは難しいけど、楽しい。

図14 事後アンケート自由記述

(3) 抽出生徒の様子から

抽出生徒の様子は表5のとおりである。抽出生徒Aは、表情が柔らかくなり、話すスピードやしぐさもより自然な感じで、堂々と話すことができていた。A自身も「笑顔で話すことができた」と振り返り、「今度はジェスチャーを付けて工夫したい」と述べている。抽出生徒B1は、前回同様に緊張していたが、声の大きさ、表情、ジェスチャーやスムーズさ等において、とても良くなっていた。抽出生徒B2は、発表に向けて何度も練習していく中で話す内容についても理解を深め、自信を持って話せるようになり、自身の成長を感じていた。抽出生徒Cは、発音、ジェスチャー、スピードを意識して発表に臨んでいた。「相手の目を見るようにして、カメラに視線を向けて話した」と話していた。英文の量が増えたので、話すことが難しそうだったが、落ち着いて堂々と話せていた。以上のことから、My SELF Noteを活用して表現活動を行うことは、自身の成長を実感したり、自信を持ったりすることができ、積極的に英語を使おうとする意欲を高めることに有効であると考えられる。

表5 抽出生徒の様子

A	自己紹介スピーチでは、発音やスピード、強調する語などを意識して、話すことができていた。落ち着いて話せている様子であるが、少々表情が硬かった。第2回授業実践のスピーチでは、笑顔が増え、伝えたい語を強調したり、ジェスチャーを付けたりするなど、より相手を意識して話していた。
B1	自己紹介スピーチでは、覚えた英文を話しているという様子だった。話すスピード、間を取ることで、自然なジェスチャーを付けるなどが入ると良くなった。第2回授業実践では、声が大きくなり、笑顔が増えた。イントネーションがより自然なものになった。相手に「話している」「伝えよう」という気持ちを感じられた。
B2	自己紹介スピーチでは、覚えた英文を間違えずに話すということに終始したようだった。第2回授業実践では、未習語を多く取り入れた紹介文であった。多少、思い出しながら話をしているという様子ではあったが、スムーズに話せている部分もあり、練習の成果を感じた。
C	自己紹介スピーチでは、緊張して声も小さく、覚えた英文を間違わずに言わなければならないという不安感からか話すスピードが速くなっていた。第2回授業実践では、自然なジェスチャーを付けて話すことができた。話すスピードはやや速いが、声は大きく、表情は柔らかくなった。

VII 研究のまとめ

1 成果

- 新任のALTに自分のことを分かってもらうための自己紹介や、自分の好きな人や憧れの人を紹介する他己紹介の場面を設定したことにより、進んで辞書を活用したり、教師に質問したりしながら、積極的に伝えたいことを表現しようという態度の育成につながった。また、相手を意識した発表をしようという気持ちを高めることができた。
- 基本文シートを用いた練習をし、My SELF Noteに英文を書きため、ポートフォリオとして活用したことにより、紹介文を作成することができた。書く活動を通して、自身の語彙力の広がりを感じ、更に高めたいという意欲につながった。
- コミュニケーション活動に向けてMy SELF Noteを活用したことにより、書くことの楽しさや、前よりも書けるようになっていく自分を実感することで、自信を持ってコミュニケーション活動に取り組むことにつながった。また、ビデオリフレクションを併用することで、自分の成長や課題を感じ、相手により良く伝えようとする態度も育てることができた。「話すために書く」というMy SELF Noteのねらいに近づくことができた。

2 課題

- 発表後、賞賛し合ったり、日本語で感想を伝え合ったりすることが意欲の向上につながった一

方で、互いの発表に関して英語で聞き返しや質問するなどの時間は設定できなかった。3年次には、発表とやり取りが一体化するようにしていく必要がある。また、必然性のある場面設定をしても、相手に何を伝えてよいか分からないという生徒もいた。マッピングの指導を通して、思考を可視化できるようにする必要がある。

- My SELF Noteに書きためた英文を活用してまとめた英文を作成する際、自然な流れや意味のまとまりがある文章にするために、My SELF Noteから英文を吟味し、文章を構成できるように指導する必要がある。
- 自分の発表のビデオをクラス全体で見ることが好きではないと感じている生徒もいる。ビデオリフレクションの意義を伝えることや、発表の成果を認めたり、賞賛を与えたりすることで、抵抗感の減少につなげたい。個人で振り返ったり、代表者の発表を振り返ったりといったリフレクションの形態を工夫する必要もある。生徒が自身のスキルアップを実感するためには、3年間を見通して、計画的、継続的に行っていく必要がある。

VIII 提言

My SELF Noteは自分の思いや考えを伝える表現活動を充実させるために、1年次から取り組んでいくポートフォリオである。ポートフォリオを通して、言語材料の定着とともにコミュニケーション活動への意欲の向上につながると考える。My SELF Noteを授業の中で活用することで、「書くこと」の充実が図れ、さらに、「書くこと」が、「話すこと」「聞くこと」「読むこと」とうまく連動し、コミュニケーション活動が豊かになる。1年生の段階から自分の思いや考えを伝える活動をする中で、英語が苦手な生徒にスモールステップで負担をかけず、自身の成長を感じられるようにする。英語が得意な生徒には、文量を増やすことや具体的に書くことなどの負荷をかけ、より高いレベルの表現に挑戦できるようにする。My SELF Noteを基に、英文を書き、工夫しながら英語を話す練習をし、それぞれのレベルでできるようになったことを実感することは、自信となり、積極的にコミュニケーションを図ろうとする力につながるものと考えられる。

<参考文献>

・田中 章一・林 裕子 著

『小学校外国語活動と中学校英語科の接続（2）－英語教育改革実施計画（2013）を受けて－』

(2014)

・清田 洋一 著 『英語学習ポートフォリオの理論と実践－自立した学習者をめざして』

くろしお出版(2017)

<担当指導主事>

町田 邦江 永井 直樹